

**令和４年度 第１回釧路市地域ケア会議 高齢者虐待対応ケア会議
委員からの意見等の集約結果**

事例検討に対するご意見

高齢者虐待対応フロー図に沿って、早い段階からコア会議につなげることが大切だと感じた。認知症になった時に自ら自分の状態や状況を説明できないことがあるため、ケアマネジャーがそのことを察知するなど、さまざまな方法で救出できるような方法としては、フロー図はとても良い。

療法士がリハビリの中で身体に痣があるとか、服装が汚れているなどの変化に迅速に情報共有していくことが大事だと思った。虐待が起きる背景に介護負担や認知症に対する理解度などもあると思うが、そういうところに療法士として適切な介助指導や認知症の方に対する生活行為の工夫など、ケース会議やケア会議で助言などでもできると考えた。今回のケースに関しては難しいところもあるが、様々なケースの中で介護で困っていることなどがあって協力できる場所があればしていきたい。

高齢者虐待対応フロー図を見合わせながら事例を聞いていたが、わかりにくかった。時系列で分かりやすくないか。ケアマネジャーが通報するケースが多いため、心理的負担が大きいと思われ大変な仕事だと感じた。そのためケアマネジャーへのフォローも必要ではないか。フロー図については、部署ごとや時系列などで工夫するなどし、通報がしやすいフロー図であつたらよい。

このように道筋を立てて役割分担をした先に、ケアマネジャーがどこまで介入できて役割を果たせるかが大事だと思う。こういったケースの振り返りやフィードバックをし、シミュレーションすることも教育につながるのではないかな。

養護者に精神疾患があったり、ケアができなく虐待になってしまっているケースも見かける。虐待という言葉はデリケートな言葉であるため、他に良い言い方はないかと思うことがある。加害者にさせない視点も大事だと考える。養護者のその先も考えていかなければいけないため、事例を通して養護者を守っていくことも忘れないようにしたい。

施設に入所してから年金を当てにして生活をする方が一定数いる。自己負担をいただかなければ施設も運営できず、支払いがないと退所の可能性もあるとは記載しているものの、退所してほしいとも言えない状況。そういったケースが増えてきている。今回のように保佐人いれば良いが、そうでない場合もある。いろいろな支援体制があると思うが難しい社会の中、しっかりと勉強しながら今後もすすめていければと考えている。